

巻頭言
Greeting

× 田村 将
Masashi Tamura
聖書神学舎 専任教師

Profile

1980年京都府生まれ。聖書神学舎50期卒業。日本同盟基督教団中野教会で3年間牧会後、世田谷中央教会に教師籍を移し北米へ留学。帰国後2017年から2026年4月まで朝霞聖書教会で牧会。聖書神学舎では2017年より講師。教師を経て今年4月より専任教師。主に旧約学を担当。



あなたは祝福となりなさい

「主はアブラムに言われた。『あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。』(創12:1、2)

忘れもしない、2024年3月3日(日)早朝のこと。当時牧師として仕えていた朝霞聖書教会で、その日の主日礼拝にて取り次ぐよう示されていたのがこの箇所でした。私はその日、朝食の準備をしながらみことばを思い巡らしていました。それまではどこか、語るべき命題がぼやけたままの状態でした。それで(大体いつもそうしているように)講壇に向かうまでの時間に、手を動かしながらみことばを改めて思い巡らしていたのです。その時のことでした。

「あなたは祝福となりなさい。」

このみことばが突然、迫ってきました。それは直接自分に語りかけられたかのようにして、私のうちに響きました。実はそれまで自分自身の課題として、悩みつつ決断できずにいたことがありました。それは、聖書神学舎での専任教師としての奉仕の可能性についてでした。今後の進路を決め切れずに悶々とした日々を過ごしていました。しかしこの時に、主がこのみことばをもって押し出してくださいました。神学舎の専任教師となって羽村へ行くように。そのように主が招いてくださっていると受け止めました。

しかしそれにしても、「祝福となる」とはどういうことなのか。具体的なことは示されませんでした。

祝福となるべく何かにあくせくすることではないのでしょうか。主はアブラムに、「行きなさい、祝福となりなさい」とだけ言われました。自分に何ができるのかは分かりません。ただ、召してくださったお方の命に従って行くことなのだと言われています。信仰の父アブラハムに自分をなぞらえることなど、おこがましくてできません。それでも、語られたみことばの確かさのゆえに自らを主に差し出すことを求められていると理解しています。

この導きを頂いた当日の説教において語るべく用意されたことばが原稿に残っています。

「神の招きが彼の人生を圧倒していた。だから、色々な気になることがあったとしても、それは問題にはならない。それが主からの召しを受け取るということ。先行きが全く見えない中でも、懸念が払拭されなくても、主の召しが確かであるゆえに従うのである。」

正直に言えば、自分には到底負えない働きだと感じています。「できないことのために召されている」と先の先達のことばが、重くのしかかります。それでも、召してくださったお方のご真実のゆえに従うのだと言われています。主が自らの尊い血をもって罪人を買取り、ご自身との生きた交わりに招いてくださった。その臨在の主を見上げつつ、歩ませて頂きたいと願われています。この者と家族(妻・娘 [6歳])のために祈り頂けますと幸いです。

No.204 Topics

- p03 新入生
- p04-05 2025年度卒業生 / 卒業生を迎える教会の声
- p06 事務局から
- p07 学びの窓

揺り動かされない御国を

赤坂 泉

Izumi Akasaka
聖書神学舎 校長

ただキリストの福音にふさわしく
生活しなさい。(ピリピ 1:27a)

福音の前進のために

3月の卒業式では、結果的に2名を送り出しました。また、鞭木由行師ご夫妻と宮井兄の多年のご奉仕に、それぞれ、花束をもって感謝を表し、一つの大きな節目を刻みました。

4月に6名の新入生を迎えた学舎は少し賑やかさを増しました。20代から60代まで多様な背景を持つ新入生と、少人数でも忠実で熱心な在校生たちです。新しい共同体が形成されています。また、田村将先生が専任教師に加えられ、学舎内に住んでご夫妻で舎監を務めてくださいます。事務所の体制も新しくなりました。すべてが主の恵みです。

5月の「祈りの日」には、一日を取り分けて祈りに専念し、矢吹博先生を説教者としてお迎えして、一同で主の御声を聞きました。

6月には…と主のみわざは続いています。ピリピ書のみことばに励まされて、キリストの福音にふさわしく、御国の民としての矜持を持って、霊を一つにして堅く立ち、福音の信仰のために心を一つにして歩む学舎でありたいと思います。

鞭木師が学舎の奉仕を辞されたことについては、情報が簡潔だったことも含め、皆様にご心配をおかけしました。昨年3月に教師の任を終える際に鞭木師が表明された見解と問いかけに応じて、それ以来、教師会が検討してきた課題です。多数の問い合わせや要望をいただき、教師たちは、共有してきた理解と判断に基づいて対応させていただいていますが、応答だけでなく、おもに卒業生に向けては発信の責任もあることを覚えて準備を進めています。大変残念な展開でしたが、

諸教会のため、鞭木師のため、また学舎のために、主のご支配が行き届くように、引き続きお祈りいただけますと幸いです。

揺れる地、動かない御国

世界は揺さぶられています。地政学的にも、世界経済も、地球環境も激しい変化に直面しています。混迷の度を増す世界のために、平和を祈り、揺るがされない御国の拡大を祈ります。

そのためにも教会が祝され、強められることが不可欠です。ならばこそ、伝道者、牧会者がさらに加えられることも必要です。教会の祝福を祈り、献身者が起こされるように祈り、神学教育機関がさらに用いられるように、教会の祈りを合わせましょう。

夏の間

夏期研修講座と教会音楽夏期講習会の準備が続いています。宣教の前進のため、礼拝の充実のために、主が用いてくださることを信じます。昨夏の研修講座の講義録は、『釈義と神学』第3号としてウェブサイトにて公開しています。印刷版もあります。ご活用ください。

今年の夏期伝道実習は、都内と福岡県の三つの教会に受け入れていただきます。9名が準備しています。これも主が用いてくださいますように。

諸教会でも夏の諸計画に備えておられるでしょう。そのすべてを、主ご自身が、主の目的のために祝福してくださいますように。

このように揺り動かされない御国を受けるのですから、私たちは感謝しようではありませんか。感謝しつつ、敬虔と恐れをもって、神に喜ばれる礼拝をささげようではありませんか。

(ヘブル 12:28)



左より 川口、戸澤、永島、日高、後藤、藤巻

氏名	出身教会	奉仕教会
聖書神学舎本科 [4名]		
川口 真琴 <small>かわぐち まこと</small>	日本福音キリスト教会連合	かもい聖書教会
戸澤 元宏 <small>とざわ もとひろ</small>	日本福音キリスト教会連合	佐倉福音キリスト教会
永島 勇人 <small>ながしま はやと</small>	日本福音自由教会協議会	蕨福音自由教会
日高 嘉信 <small>ひだか かしん</small>	日本伝道福音教団	三条福音キリスト教会
聖書神学舎聖書科 [2名]		
[聖書専攻]		
後藤 優希 <small>こうとう ゆうき</small>	単立	浦和福音教会
藤巻 正人 <small>ふじまき まさと</small>	日本福音自由教会協議会	草加福音自由教会

葛藤の中で味わった主の確かさ **戸澤 元宏**

前職は宣教団体のスタッフでした。任期の決まった働きだったので、「この仕事を終えたら、聖書神学舎に」という思いもありました。それでもいざ退職後を考える時期になると、本当にこのまま「伝道者」としての歩みを続けて良いのかと、不安に思うこともありました。しかしそのように揺さぶられ、問われ、葛藤する期間にこそ、私自身の中にある小さいけれども、確かなもの、変わらないもの、に目が留まりました。それを「召し」と言ったり、「信仰」と言ったりするのは分かりません。それでも確かにあるソレを、神様からのものであると受け取って、入学に導かれてまいりました。

これからの歩みでも、揺さぶられ、問われる日々が続くことと思います。しかしそんな時こそ、揺れる自分に気を配り、主からの問いかけに耳を傾けていきたいと願います。そしてこの研修期間、主の確かさをより豊かに知らせていただけるなら、何よりの幸いです。

退職後に導かれた献身 **藤巻 正人**

私は30年間勤務した職場を退職した後、残された人生で自分の使命は何なのかと考えるようになりました。

自分の信仰を聞かれたときにきちんと答えられるだろうか、そのような機会もあると思い、信徒として聖書の学びができる、お茶の水聖書学院(OBI)に導かれました。OBIで学んでいる中で、無牧や兼牧の教会が多いこと、後継者が少ないこと、教会員の高齢化などの状況を知りました。そのような中、さらなる献身の思い、みこトバが与えられました。使徒の働き 8:31、ローマ人への手紙 10:14-15、マタイの福音書 9:37-38。導いてくれる人がいなければ、どうして分かるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。

既に60歳以上の年齢で若くはありませんが、福音を宣べ伝える働きのために用いていただきたいと願っています。これから先、どのような働きができるのか分かりませんが、主の導きにお任せしたいと祈っています。



左より、小林、中村

氏名	出身教会	奉仕先
聖書神学舎本科 [1名]		
<small>なかむら みづき</small> 中村 瑞来	盛岡聖書バプテスト教会	保守バプテスト同盟 盛岡聖書バプテスト教会
聖書神学舎聖書科 [1名]		
[聖書専攻]		
<small>こばやし ゆうか</small> 小林 優香 (旧姓:後藤)	浦和福音教会	単立 東伏見福音キリスト教会

平安を与える計画

小林 優香

「わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている——主のことは——。それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」

私はこのみことばを中心に、エレミヤ書 29 章 1-14 節から、卒業説教をさせていただきました。この研修生活を振り返ると、入学した当初には想像もしていなかった多くの困難に直面しました。寮での人間関係、自分の罪深さ、そして、終わらない課題の多さ。そうした中で、私は何度も「神様、平安を与えてください」と祈りました。

この箇所を読み、説教の準備をする中で、私は改めて神様の平安について教えられました。

それは、平安は神様との関係の中にあるということです。そこを離れてしまえば、たとえ周りの人からは穏やかでも何も問題がないように見えたとしても、本当の平安はないということです。

また、この箇所では「その町の平安のために祈りなさい」と命じられています。私はこれから、神様が示してくださる場所へ遣わされていきます。そこには、私が思い描くような平安や計画はないかもしれません。しかし、平安とは状況が整うことではありません。主がともにおられ、主を求め続けて生きることのできる場所に、平安があるのです。エレミヤ書の民は、神殿もない異国の地にいました。そのような場所であっても、神様は「その町の平安のために祈りなさい」と命じられました。そして、ごまかされることなく、主ご自身を求めなさいと言われたのです。

私も、これからどこに遣わされるとしても、主が遣わしてくださる場所で、主の召しに従い、その町の平安のために祈り、主を求め続けたいと願います。

「まだ若い、と言うな。わたしがあなたを遣わすすべてのところへ行き、わたしがあなたに命じるすべてのことを語れ。」

通り良き管となるために

中村 瑞来

イエス様から牧会者としての召しをいただいたとき、私の心を最初に満たしたのは恐怖でした。理由はいくつもありませんでしたが、何より重くのしかかったのは、誤りなき神のみことばを、誤り多き自分が取り次ぐという務めへの恐怖でした。主のみことばを正しく聴くことなしに、この務めを担うことは到底できない。その思いから、「もし本当にこのしもべをその務めに召しておられるのであれば、どうかあなたの御思いを聴く耳をお授けください」と祈りつつ、原語からみことばに聴く姿勢を大切にする聖書神学舎での研修を願い求めました。

四年間の学びを終えた今、その恐怖が消えたかといえば、決してそうではありません。むしろ、みことばが真に神のことばであり、人が軽々しく扱ってよいものではないという事実を、学びの中でより深く知らされたことで、みことばへの“恐れ”を抱く者となりました。

しかし、この四年間に与えられたのはみことばへの恐れだけではありませんでした。みことばそのものが慰めに満ちており、矯正し、人をつくりかえるということ、身をもって経験させていただきました。自分の弱さや限界に向き合うたび、みことばは確かに私を導き、主の御前に立ち返らせてくれました。振り返ってみれば、真に神学舎で受けた学びと生活の訓練は、私がかつてより祈っていた祈りの応えでした。

春からは、主が遣わしてくださるその場所で、牧会者として仕えることとなります。願わくは、まだ主を知らない人々にみことばを伝え、愛する兄弟姉妹とともに、神と神のみことばを愛したいと祈っています。みことばの奉仕者としての豊かな備えの時を与えてくださった主に深く感謝しつつ。

04 卒業生を迎える教会の声 From Churches Where New Graduates are Serving

仕える群れとなるために

近藤 愛哉

Yoshiya Kondo

盛岡聖書バプテスト教会牧師

盛岡聖書バプテスト教会は、この3月に神学舎を卒業した中村瑞来兄を牧師として招聘し、複数牧師体制に移行しました。4年間にわたり、中村夫妻の学びと訓練に携わってくださった神学舎の関係の方々、奉仕教会の方々、そして祈り支えてくださった方々に、心より感謝申し上げます。

今回の牧師招聘に際し、特にこの1年間、私たち教会は、話し合いと祈りの時を重ねてきました。主が私たちの教会に与えてくださっている使命は何か。このことを何度も繰り返し確認する中で、新しい牧師を招聘するべきか否か、期待や不安、積極論や慎重論、心配や恐れなど、各々の思いの中からにじみ出て来た言葉に耳を傾け合いました。これは、私たちが教会という群れについての理解を深めるために、主が備えてくださった特別な時間であったと振り返ります。

中村兄は当教会の出身です。求道者から始まり、教会員、役員、神学生と、その立場を変えてきました。その過程で、私たちが共に教えられ続けて来たのは、一つの地域

教会内で信仰者が仕え合うだけでなく、教会と教会、群れと群れとが互いに仕え合うことが、地方宣教における大きな鍵であるということです。

私たちが、ますます「仕える群れ」となるために、牧師という新たな立場で仕え始めた中村兄とご家族の祝福を、どうぞお祈りください。



主が備えてくださった恵みによって

宮井 羊一
Yoichi Miyai



この3月まで聖書神学舎の事務で奉仕させていただいた宮井羊一と申します。この28年間、主がこのご用に召してくださったことは、私にとって大きな恵みでした。

召される少し前のこと、神様の働き人を技術的な面で支えたいとの願いを与えられながらも、目立たず人に仕える働きに踏み出せずにいた私に、主はみことばをもって語りかけてくださいました。

「しかし、わたしはあなたがたの間で、給仕する者のようにしています。」(ルカ 22:27c)

このみことばによって、私が給仕できない理由は何もないことを示され、神学舎の働きへと導かれました。

その後、召しに喜んで仕えていた時もあれば、いのちを与えて仕えてくださった主から目を離し、仕える喜びを見失ってしまった時もありました。それでも主はそのような私をあわれみ、多くの祈りと支えを与え続け、ここまで導いてくださいました。

先生方には時に応じて必要なご指導をいただき、職員の皆様とは共に仕事を担いながら、日々のおいしいコーヒーや食事を通して支えていただきました。諸教会の皆様からも祈りと多くのご支援をいただきました。研修生・卒業生の皆さんとの何気ない会話、ボランティア、路傍伝道、外でのお茶、時にはトラブルの仲裁に至るまで、立場を越えた親しい交わりは、私にとって喜びであり励ましでした。皆様に心から感謝いたします。

振り返ってみると、ここまでの働きは、主が日々備えてくださった恵みによって成されたものであり、私が仕えていたのではなかったことを深く思われています。

恵みとあわれみに満ちた主の御名をほめたたえます。皆様のうえに、主の恵みと平安が豊かにありますように。心からの感謝を込めて。



事務局の新体制

2026年4月から事務局の体制が新たになりました。

和泉結兄が加わり、これまで宮井羊一兄が担っていた業務を引き継いでゆく中、まず教務関係の仕事に取り組んでいます。期待の新人(20代)です。

この引き継ぎにあたっては、昨年末より、卒業生の姉妹に非常勤で支援をお願いしており、夏頃までご協力いただく予定です。

一方、従来のメンバーは、それぞれ少し業務の幅を広げつつ、中川朝子姉は図書館司書、庶務などの仕事を担当し、齊藤一誠兄は、非常勤で週2日、ウェブサイト、ニュースレター、モノグラフの編集やイベント出展など、広報関係の業務を担当しています。

また、成宮雄三兄は厨房を担当し、食品衛生管理者として、またシェフとして、多彩なメニューで日々の食事を提供しています。

新体制に合わせた業務の流れを構築するとともに、将来的にはデータベース再構築についても具体的に検討しなければなりません。限られた人数ではありますが、事務局の働きが着実に進められるよう、お祈りください。

バッハのコラール前奏曲にみる受難の象徴

矢吹 綾子
Ayako Yabuki
聖書神学舎 教師

バッハのオルガン曲の中に、“われらに幸いを与え給うキリストは(BWV620)”、“おお人よ、汝の大いなる罪に嘆け(BWV622)”という受難節のコラール前奏曲があります。これらの曲は、受難の痛み、苦しみを音楽言語を用いて語っています。

“われらに幸いを与え給うキリストは”の元になるコラール【譜例1】の1節の歌詞は、「罪なきイエス・キリストが、私たちのために捕らえられ、あざけられ、からかわれ、唾をかけられました。聖書に預言されているように」という内容です。このコラールの旋律は、ソプラノと2拍後から始まるバスに置かれ、カノンになっています。また、アルトとテノールの冒頭部分も、カノン風に模倣されています【譜例2-①】。これは、御子による神の救いのご計画の成就を表現しています。アルトとテノールのシンコペーションのリズムは、痛々しく、激しい感情を表現し、それに続く半音階は、嘆きを表現しています【譜例2-②③】。そして、この曲の中には、半音上げる#(シャープ)が多く用いられています。#は、ドイツ語で Kreuz(クロイツ)と言い、

それは、十字架という意味のことばです。ここでは、受難を強調するために#を多く用いたと思われる。

“おお人よ、汝の大いなる罪に嘆け”のコラール【譜例3】の旋律はソプラノに置かれ、多くの装飾音が施されています。曲の終わりの部分に、装飾の全くないコラールの旋律が現れます。そこには、「十字架」という歌詞があり、バスは重苦しい半音階で上行しています【譜例4-①】。これは、私たちの罪の重荷を背負って歩く主イエスの足取りを表現しています。そして最後に、ハ長調の全部の音に半音下げる♭(フラット)を付けた変ハ長調という最も低い調に一時的に転調します【譜例4-②】。これは、ピリピ人への手紙2章6～8節に記されている、神の御子であられるイエス・キリストが、ご自身を低くされ、十字架の死にまで従われたということを表しています。

これらのオルガン曲は、イエス・キリストの十字架の苦しみと愛を心に刻み、十字架の贖いを深く覚えさせてくれます。

【譜例1】



【譜例2】



【譜例3】



【譜例4】



○ JBS Sunday - 聖書神学舎を知っていただく新たなプログラム -

聖書神学舎はこれまで、学舎のことを理解して下さった諸教会とクリスチャン方によって支えられてきました。さらに多くの方々、特に次世代の方々にも学舎のことを知っていただきたいと、「聖書神学舎デイ(JBS DAY)」を企画しました。神奈川、東京、埼玉、千葉と5つの教会に会場を提供していただき、教師と研修生全員で出向いていきました。ミニ講義や交わりを通じて学舎の雰囲気とその日常を体験していただく中で、学び舎の活動への理解が深められまた広げられていったことに感謝しております。

今後は、教師と研修生がより小さなユニットで聖日に諸教会を訪問し、礼拝説教や証しを担当させていただきながら、その後の交わりを通して聖書神学舎を紹介させていただき聖書神学舎教会訪問プログラム「JBS Sunday」として活動を継続いたしますので、お声がけください。

- 教師1名と研修生2名の計3名で聖日にお伺いいたします。
- 教師は礼拝説教を、研修生は救いと献身の証しおよび学舎紹介を担当させていただき備えがあります。
- 訪問は、聖書神学舎から車で移動し日帰りできる距離内の諸教会とさせていただきます。経費・謝礼等についてはご無用です。
- お申し込みは、原則として派遣希望日の3か月前までに、聖書神学舎ウェブサイトの「メールフォーム」からお願いいたします。
- 訪問にあたり、教師や研修生のご指名には応じかねますので、あらかじめご了承ください。

教会の修養会や学び会、あるいは「神学校・神学生を覚える日」などの年間行事計画に組み入れていただき、広く受け入れていただけることを期待しております。



ウェブサイトのトップページ下部の「アクセス&コンタクト」をクリックすると、お申し込みのための「メールフォーム」が表示されます。

○ 2025 年度決算見込と 2026 年度予算について

恵みに富む主の御名を賛美します。

教会のわざとして、教会の祈りと献金に支えられて、聖書神学舎の働きが続けられてきたことを主に感謝しています。6名の新入生を迎えましたが、牧師・教師を求める諸教会の必要はますます増大しています。多くの献身者が起こされ、そのための人的・財的資源も十分に備えられることを祈っています。

2025年度の決算においては当年度資金収支差額は394万円のマイナスとなりました。維持献金では2900万円が与えられることを祈り、2700万円余の献金をお預かりしました。昨年度より33万円増を感謝しました。学舎の経済のほぼ半分が、諸教会からの献金によって支えられていて、文字通り、教会のわざがここにあります。支出の面では、不測の営繕の必要や経年劣化への対応などで予算の補正が必要になりました。厳しい状況ですが、主の御手の守りを祈りつつ、注意深く管理してまいります。

2026年度も、引当金からの取崩しを630万円予算計上するという状況にあります。2027年度以降は収支バランスの改善を期待できる要素もあり、今年の一年度の必要が満たされることを祈っています。諸教会、皆様にも経済的な闘いの大きいことと思いますが、神学教育・伝道者養成のためにお祈りいただき、お支えいただけますようによりしくお願いいたします。

祈り支えてくださる皆様に、天来の祝福が豊かにありますよう、お祈りいたします。

(財務)